



大正っ子

帯広市立大正小学校

Obihiro Taisyou

Elementary School

<http://www.taisyo.obihiro.ed.jp>

No.49

平成29年11月2日

今後、小春日和の時期もあろうかと思いますが、時期としてはすでに晩秋であり、風が冷たく冬季に向かってきていると思う日が増えてまいりました。今、学校では、大きなイベントである学習発表会の練習モードに入っておりまして、子どもたちも、忙しさが日に日に増してきています。さて、今号では、全国学力学習状況調査の結果や子どもたちの活躍や活動の様子を中心にお伝えしていきます。

全国学力学習状況調査の結果について



今年4月18日に6年生を対象に全国一斉に行われた学力学習状況調査の結果が公表され、過日、本校の結果も学校に届きました。北海道の結果は報道等ですすでにご覧になられているかと思いますが、ここでは、本校の結果概要や傾向についてお伝えしていきます。この調査の目的は、学校が指導した成果を確認し、課題を明確にする中で、子どもたち一人ひとりの指導に工夫、改善を図ることにあります。本校では、これまでも「学習の仕方」(学習常規)を踏まえた学習指導の展開、授業のねらい(課題)を明確にした授業構成、振り返り学習(繰り返し学習)による基礎基本の定着や家庭学習の習慣化など、子どもたちの学力向上にむけた取組を展開しています。これを機会に、学習指導全般について再度、検討を加え授業改善に努めます。なお、本校は近年、学年20人弱(20人を超える学年もあります)でありますので、年度によっての特徴(違い)が出てきます。そのため、他学年においても似たような傾向があるかどうかを確認しながら、結果を参考にして、学校として、共通に取り組むことを見つけていきたいと考えます。帯広市全体での傾向がまとめ次第、HPにおいてもさらに詳しい内容も加えて紹介します。

1 調査結果の概要



○教科に関する調査

教科	平均正答率の全国平均	下位層(※)の分布
国語A	全国平均をやや上回る。	全国より少ない(下位層なし)。
国語B	全国平均を下回り、全道平均をやや下回る。	全国より少ない(下位層なし)。
算数A	全国平均・全道平均を下回る。	全国より少ない(下位層なし)。
算数B	全国平均を大きく上回る。	全国と同程度。

※下位層・・・得点が全国平均の下位25%に位置する相対人数比率です。国語A、国語B、算数Aの下位層が全国より少なく、算数Bも全国と同程度となり、全体として下位層が少なく、良い傾向にあることがわかりました。「やや」は2%未満、「大きく」は5%以上、それ以外は2%以上5%未満程度と考えてください。

○教科の結果について特徴的な点

- 《国語》 ・国語Aは話すこと・聞くこと、書くことは良好であるが、読むことに課題が見られる。
・漢字の読みは良好だが、書きに課題が見られる。
・国語Bは、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことにやや課題が見られる。
- 《算数》 ・算数Aは「量と測定」「図形」が良好であるが、「数と計算」に課題が見られる。知識の観点でも課題が見られる。
・算数Bはすべての領域・観点で全国を大きく上回っている。
- 《教科全体所見》 ・国語・算数ともに平易な問題に対する無回答は極めて少ない。

○児童質問紙回答に関する結果

《全道・全国に比べ望ましいと思われる傾向》

- ・朝食を毎日食べている割合は100%である。
- ・国語の学習、読書を「好き」と答えた子どもが多い。
- ・国語で目的に応じた資料の読み、自分の考えを表現しようとする子どもが多い。
- ・「家庭で計画的に学習している」子どもの割合は高い。
- ・授業の目標とまとめが示されノートに書いていると答えた子どもの割合がやや高い。
- ・「家庭で全ての子どもの宿題」をしていると答えた子どもが多い。
- ・学習したことを生かしていると感じる傾向が高い。
- ・物事を最後までやり遂げて嬉しいと感じた子どもは100%体験。
- ・相手の考えを受け止め、自分の考えをもつことができる子どもが多い。
- ・将来の夢や目標をもっている子どもの割合が高い。
- ・新聞を読んでいる子どもが多い。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している子どもが多い。

《全道・全国に比べ課題と考えられる傾向》

- ・算数の学習に対して、「好き」「嫌い」の2局化がやや見られる。
- ・算数の新しい問題に出会ったとき、解いてみたいと思う子どもの割合が全国・全道より低い。
- ・学習の振り返りの活動を行っていたと考える子どもの割合が全国・全道より低い。
- ・「理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」と考える子どもの割合は平均するとやや低い。
- ・起床時刻、就寝時刻がやや不安定の子どもの割合が高い。
- ・学校以外の学習時間が、全国・全道より少ない。1時間未満が約半数。
(※本校は、学年×10分+10分=70分を目標にしている)

《テレビ視聴・ビデオ視聴・DVD視聴傾向》・・・課題がある。

- ・全国・全道と比べて、2時間以上の長時間視聴の割合が高い。3時間以上の長時間視聴の割合も高い。



$$\begin{array}{r} 12 \\ \times 34 \\ \hline 408 \end{array}$$



- 《ゲーム》・・・全国と同程度である。
 ・全国・全道と比べて、1時間未満及び2時間未満は全国と同程度である。



2 今後の取組について

これまで継続してきた取組が学力向上に結びつきつつあると評価しています。また地域・家庭と連携した取組（規則正しい生活、家庭学習、地域の人に学ぶなど）は学習や生活の構えを作り、素直に努力する態度を向上させていると考えられます。児童質問紙の回答では各教科に対しての学習意欲や学習を大切に思う価値観が高まっていることが読みとれます。

また、本校学習常規を徹底することや漢字学習等の継続した取組は、基礎基本の定着に効果を上げていていると考えています。本校がこれまで継続してきた指導を今後もぶれることなく継続していくことが大切であると考えています。今回の調査で明らかになった課題については以下の方策でさらなる向上を目指します。

《国語》

- ・読みとりの「ひとり学び」「話し合い活動」ともに継続して取り組む。
- ・漢字検定の取組や読書活動の充実など家庭やボランティアとの連携を深めながら読書の質と量の充実を図ります。
- ・漢字の書き取りの練習に力を入れます。

《算数》

- ・児童の理解に応じた教材の活用や空間を意識させる算数的な活動を充実させます。
- ・他領域・他教科との連携を図り、基礎的な知識・技能を活用する学習活動を設定します。



《教科共通》

- ・授業の振り返りの学習を充実させます。
- ・家庭と連携し家庭学習の質・量の充実を図ります。（目標は、学年×10分+10分ですが、）どの児童も学年×10分が達成できるよう働きかけます。さらに、児童が自分から計画して学習できるよう支援します。
- ・漢字や計算など基本の基本は繰り返し学習を通じて身につけさせます。
- ・学校の全ての教育活動を通じて、安心して学び楽しく過ごせる学校となるよう指導の充実につとめます。
- ・整った学校環境の整備や豊かな人間関係を基盤に、安心して学べる学校づくりにつとめます。

がんばる大正っ子 ～その輝きによせて～

第29回 MOA美術館・帯広児童作品展 書道の部 10月28日(土)

※上記作品展で上位入選した児童3名を紹介します。おめでとう！！

S. K.	さん (6年)	金賞
I. R.	さん (4年)	銀賞
N. S.	さん (2年)	金賞



左からN.さん・I.さん・S.さん

帯広市特別支援学級合同学習発表会

10月31日(火) グリーンプラザにて 大勢の前で、よくがんばりました！！



3択クイズ「どれですか。」



英語での紙芝居「センキュウ」



表現活動～大きな拍手をいただきました。

児童会によるハロウィンイベント～中休み1～3年生、昼休み4～6年生～

○11月1日(水)、スタンプラリーで、児童会三役さんを校内から探します（ハロウィンの仮装をして校内に隠れていて、探してもらった人にスタンプを押します）。校内中を探し、体力づくりにもなりました。

※下の写真は、昼休みの4～6年生の内容です。

